



執務事例集 養護教諭が行う授業実践(0からのスタート)

平成12年2月17日発行

表紙絵 深澤知紗(清水市立不二見小学校)

扉絵 鎌塚優子(三島市立北小学校)

目次

発刊にあたって

静岡県養護教諭研究会会長 岩崎糸恵

心の教育

からだと心のふしぎ(小5)

エイズと共に生きる(小6)

むかつく心を考えよう(中2)

安全教育

「けがをした時、あなたはどうする？」(小5)

応急手当って何だろう(中3)

けがは防止できるか(中3)

環境教育

水ってだいじだよ！(小6)

見つめよう はじめよう 地球とわたしの健康(小6)

守ろう！ わたしたちの地球(中2)

性教育

10歳のふしぎな心(小5)

子供から大人へ(中1)

輝く未来のために(中3)

食に関する指導

3回の食事でパワーアップ(小5)

健康っていいね(小6)

気を付けよう、中学生のダイエット(中3)

薬物乱用防止教育

たばこをやめてよ(小6)

ダメ。ゼッタイ。薬物乱用！（中3）
たばこを友人から誘われたら？（中3）

小学校3,4年の保健学習
みんな元気になろう（小3）
大人への出発（小4）

資料

[編集後記](#)

[BACK](#)

発刊にあたって 静岡県養護教諭研究会会長 岩崎糸恵

調査研究委員会の実態調査報告によると、平成10年度に保健に関する授業を実施した会員は49.3%でした。内容は、学級活動TT 60.4%、一人での学級活動 30.6%、保健学習TT 31.1%、一人での保健学習 14.9%でした。学級活動の授業に取り組んでいる人の方が多く、またTTによる授業への取り組みが多い現状です。今後の見通しとして保健学習への参画の増加が予想されるので、求められる事例集として 号を「養護教諭が行う授業実践」とすることにしました。そして、保健学習をすでに手がけている人や、これから取り組もうとしている人にとっても、より身近な事例集になるよう次の2点の特徴づけをしました。

1点目は、すでにある事例をもとに編集するのではなく、事例をつくり出すことから始めることにしたことです。県内の東中西の各ブロックから6名ずつ協力委員を募り、同じスタートラインに立っての研修をし、その成果である18例を載せようと考えました。

2点目は、校内の協力体制、学級担任・教科担任との連携、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした点、授業へのかかわり方、成果、今後の課題・感想を「授業実践を振り返って」として載せることです。以上、平成10,11年度の2年間をかけて活動していくことにしました。

研修が歩み始めると、7月に教職員免許法の一部を改正する法律等の公布があり、「養護教諭の免許状を有し3年以上の経験を有していれば、保健の教科領域に係わる教諭、講師の兼職が可能」ということになりました。養護教諭の求められる資質の幅が広がり、事例集づくりにも勢いを増すことになりました。

12月になると学習指導要領の改訂があり、編集の方向性の再検討を余儀なくされました。現行学習指導要領に基づいてすでに計画実践してきた授業を新指導要領にも対応できるよう編集し直したり、新たに改訂にそった授業を加えたりして、全部で20事例を用意しました。

11年度に入ると、静岡大学の赤田信一先生のご指導も得られるようになり、編集委員の力も倍増して、「0からのスタート」と始まった研修もいよいよ成果をまとめることができました。

2年間にわたり研修に携わった18人の協力委員の方々の努力がこの1冊の重さの中に込められています。読むにつれて頼もしさも感じます。編集委員や協力委員の方々だけに留まらず、会員の皆様に役立ち、養護教諭が行う授業の在り方の究明のひとつのきっかけとして、今後への期待に胸がふくらみます。保健学習の授業実践への道に踏み出してみると、利点や問題点がだんだんはっきりしてくると思います。各学校の実態から、何のためという目的と子供たちにとっての価値を考慮して、職務の特質を生かしていきたいものです。

最後になりましたが、授業実践にまでご指導、ご協力くださいました協力委員の学校の皆様に厚くお礼申し上げます。

[編集後記](#)

中央審議会・保健体育審議会・教育職員養成審議会・教育課程審議会等様々な審議会の答申を受けて、養護教諭の特質を生かし、余人に代え難い新たな役割が打ち出され養護教諭への期待が高まっています。

養護教諭が教諭または講師として、保健領域の授業を担当することができることになり、それに対応するために静岡県養護教諭研究会では「養護教諭が行う授業実践(0からのスタート)」とし、各地区から協力委員を選出し保健学習に取り組んできました。

お茶の水女子大学附属中学校の養護教諭 山梨八重子先生の「授業について」の講義を受け、授業の中で『健康診断、健康観察、保健室での子供たちとの対応等の職務を通して得た健康課題を生かすことができるか』と試行錯誤を繰り返しました。保健指導と保健学習の違い、授業案、子供の実態の書き方、どれをとっても初めての体験にとまどい、悩みながらも、各学校での多大な協力・指導・助言・子供の笑顔に励まされて、授業実践にまでこぎ着けました。この養護教諭執務事例集 が、これから行われるであろう保健科領域の授業に大いに役立つことを希望しています。

編集に当たり、各協力委員の養護教諭とその所属する学校の校長先生始め諸先生方、静岡県教育委員会体育保健課指導主事等、多くの先生方のご協力を賜りましたことを深く感謝し、厚くお礼申し上げます。

編集委員

長谷川加津子 片山真理子 山崎友子 中山あけみ 小沢喜久代 高橋節子 市川純子

協力委員

山下美奈子 齋藤美智子 堀田由美 久野友子 杉山千幸 土屋潔美 神谷結子 鈴木永子
荒川恵子

渡辺しのぶ 伊藤すま子 藤波美奈子 落合優子 三井章代 日比野恵理子 鈴木美恵子 内堀裕基子 森都美

監修

赤田信一(静岡大学教育学部)

制作 (株)静岡教育出版社

[BACK](#)